

第8日

令和8年3月4日（水）

午前10時零分開議

○議長（小島清人君） 皆様、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は18名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、日程に従い、3日に引き続き一般質問を行います。

それでは、16番実藤輝夫議員の質問を許可します。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君） 本定例会の最後の一般質問を行います、16番議員の実藤輝夫でございます。この場所が、新しい朝倉市の門出になるような一般質問にしたいと思っております。

一昨日、熊本議員が新調してきたということでしたが、私はちょっとばかりこちらのほうが足りませんでしたので、クリーニングをした新しい背広で今日は来ておりますので、よろしくお願いいたします。

今日、お忙しい中においでいただいた傍聴席の皆様、そしてまた、今回を最後に定年退職されるその他の職員の皆様、これまでの御奉仕、そしてまた活躍に対しまして、心から感謝と敬意を表したいと思えます。

さて、毎日、新聞、テレビに放映されておりますように、国際社会は新たな激動の時代に入ったと言えます。私どもは自由と民主主義という、私たちにとって必要な、重要なものを守っていかなければなりません。しかし、それも平和という前提があって成り立つものだと思っております。今回、特に民主主義というものがどんどん少なくなり、国連の報告では、約200か国の国のうち6割近くが独裁的国家になっていると、恐るべき数字であります。

さて、民主主義とは、議会制民主主義も含めて、広く一般的に言うならば、一定の人たちが集まり、組織団体をつくった中で、一定の問題に対して意思決定をしていく。そのときに、その参加者全員または代表者によって意思を決定していく。全会一致を前提としながらも、意見が分かれ、最終的にはどうしても一定の結論を出さなきゃいけないというときに、多数決によって決めていく。こういった仕組みであります。しかしながら、過去を振り返り、歴史を見てみますと、多数が必ずしも正論であり正当であったとは言えない。少数意見も含めて、いろんな論議をしながら、最終的に結論を出していく。それには、責任とその後の反省が必要であります。今日の国際社会を見たときに、かつて通ってきた道

を、また行っているような気がいたします。国会においても、地方議会においても、民主主義とは何か、そういうことを心に刻みながら、特に、一昨来、話が出ておりますコミュニティも含め、いかなる組織団体も参加者の意思を重要視、多くの論議を重ねて結論を出していただきたい。

先ほども言いましたように、この時代の激動の中で、朝倉市が今後10年、20年、100年続いてまいります。しかしながら、昨日から10人の議員の皆さん方、質問が出ておりますように、厳しい状況が待っております。私もそうした問題を踏まえながら、よりよい朝倉市をつくるために質問をしてまいりたい、このように思っております。

以下、質問席より続行いたします。よろしくお願いいたします。

(16番実藤輝夫君降壇)

○議長（小島清人君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 一般質問通告しております順序に従いまして質問をしてまいりますが、極めて関連しておりますので、前後ろになることもあるかと思っておりますけども、執行部の皆さん方には御了解いただきたいと思っております。

まず、朝倉市が合併して20年たちました。ちょうどその頃、私も議員をいたしております、合併特別委員長として、私なりに微力尽かさせていただきました。様々な問題がありました。しかしながら、一市二町によって、今日の朝倉市を迎えております。20年の歩みという形で、この前も記念式典がありましたが、ここにもまた広報紙に、これまでの歩みとして書かれております。

私は、これを多く論ずるつもりはありませんので、簡単にやりたいと思っておりますが、やはりこの20年が本当によかったのかどうか、多数の意見によって合併したわけですが、私も賛成いたしました。しかしながら、先ほど申しましたように、責任と反省という、踏まえた上で、ここに書いてあります、次の10年、20年先へ向かってという形を取っていかなくちゃならない。そういうことを考えたときに、この20年の総括と出しておりますが、市長以下、執行部の皆さん全員、この20年の歩みというものを踏まえて、どう対処していったらいいのか。結論から言いますと、これはそれほど大きな前提といたしませんので、市長の考え方、執行部の考え方をお聞きします。

これまでの歩みとして出されておりますが、せっかく20年経過し、朝倉町、杷木町、甘木市という3つが合併して、どういう経過を辿ってきたのか。20年でおめでとう、おめでとうだけでいいのかということを踏まえた上での、行政としての機関紙を作るべきだと思っております。これは平成29年の豪雨についても、一つの反省の、こういった小冊子の大きなものができて、私も今、持っておりますが、あれを見るたびに思い出します。深く反省します。こうやってはならないというような形で、この20年のいいところ、悪いところを率直に広報紙に、数回に分けて出されたらどうだろうかと、もうベースはここに、これまでの歩みで書かれてます。これは何があったかにかがあったということしか書かれてい

ませんが、いろんな角度から杷木、朝倉の人たちの声も、甘木の人たちの声も、そして今日に至る功と罪、あるべき今後ということを踏まえた上での機関紙を作っていくべきであると思いますが、市長、いかがでしょう。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 市制施行20周年を迎えまして、これまでの20年の総括と、これを踏まえた上での将来に向かっての一つの大きな指針となる、そのようなものが必要であるというのは、私も同じ考え方でございます。

私はまだ市長として8年、20年のうち8年でありますので、全体を総括するという大きな知識も経験ありません。ただ、県議時代でもございましたので、災害が平成24年であったということ、それから平成29年、それから引き続き災害、令和5年の災害ということでありましたので、災害が一つ大きな、この20年の災害対応が、20年の大きな市の行政としての役割があったのかなというふうに思っている次第であります。

20周年を記念いたしまして、先ほど議員が言われた中で、私は地域のくくりとして、中学校単位か小学校単位なのか、ということはありませんけれども、歴史・文化と他の地域が知る、勉強できる、何かがないかとも考えていたところでもあります。そういったことを考えまして、議員御提案のように、記録をやっていくということの中で、私はやっぱり、合併していますので、市全体の杷木地域、朝倉地域、甘木地域の記録をしっかり残していくということで、次につなげていくという考え方を持っております。基本的には、同じような意見であるということでもあります。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 記録を残していくという結論だけで結構です。その後、またいろいろ論議をしていきますので、これはもうとにかくそういったものを、九州豪雨のときの機関紙みたいな形、小冊子ができましたが、ふるさと人物史も含めて、いろんな記録を後世に残していくというのが大事なことだろうと思います。

次に、今日の私の課題、主題であります、将来展望と具体的政策というもの、それと人口動態と対策となってきますけれども、まずは、昨日、2人の議員の質問に対して答弁をされました。特に15番議員の場合は、かなり長い時間をかけて答弁されましたけど、いろいろ、後、ありますので、今日、お見えになっている方は初めて聞く方もおられますし、インターネットで聞かれている人も初めて聞かれている。議員さん、ほかの人たちは何回も同じこと、3回目ということになりますけれども、そういった市民向けの立場から、将来展望と政策という形で、市長の見解をただしたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 昨日、質問をいただきました。議論をさせていただきました。特に12番議員さん、それから15番議員さんとのやり取りの中で、これから先の課題という形でお答えさせていただきますけれども、共通しておりましたのは、私が意見を述べさせて

いただいた部分は、やはり災害を市民全体、事業者も含めて、関わった人が全力でこれに向かってやってきたということで、一定の安全な形はできました。これから先、まだ安全ではないという部分がありますので、特に甘木川、小石原川については、しっかりと安全性を確保していくと、このことについて努力をさせていただくということを申し上げます。

それから、本市には、いろんな経過をたどり、多くの移転者も含めまして、御協力によって、3つのダムが出来上がっております。この3つのダムが、いわゆる水害の最小化、一番低い形でやる。それから、利水に関係しますけれども、恵みの水を最大に生かすためのいろんな施策をやっていききたい。そして、水に関する環境をよくしていきたい。具体には、3つのダムを活用させていただいて、そして最大限、朝倉市の水の確保が第一になりますけれども、福岡都市圏も含めたところで、水の安全性をぜひ確保するという、災害からダムは効果を発揮しますので、このことをしっかり守っていくということと、それから将来的にわたりまして、ダムの高低差を利用して水力発電をすることによって、そして、これから求められますCO<sub>2</sub>削減をはじめとする環境政策に、朝倉市が誇りを持って3ダムを活用してできることですので、これに向かって今はしっかりと頑張ると、将来につなげていくと、そういったことを申し上げたかというふうに思います。

もう一点だけ言わせてください。あとは人材育成であります。この人材育成については民間も非常に苦労されている、そして行政も非常に苦労していると。人材の確保、それから人材の育成、そういったことについては、広く今までやってきておりませんでした国との人事交流、そしてまた県、具体的な関係が非常に強くなる地方整備局、九州地方整備局との人事交流、それから水資源機構ともやります、やっていききたいと、そういうことを申し上げまして、これから先の課題に向けて、行政として職員の将来に向ける朝倉市の在り方といったことをみんなでやっていこうと、そのことをぜひやりますよということを申し上げます。ちょっと長くなってすみません。大体このあたりだと思います。

**○議長（小島清人君）** 16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）** 昨日、質問された2人の方、私が最後になりましたもんですから、それを踏まえた形しかありませんが、人口問題、財政健全化、治水、災害、農業というものを12番議員には話しました。15番議員には、災害復旧、それからダム利用活性化、先ほど来、それから地域、個別の減少、人口減少の抑制、子育て施策、こういうことを昨日、述べられてまいりました。

その中で、最後に文化という話が出てきまして、教育文化、これはえらい最後、力を入れられて話を、私はこれだと前から言っております。教育長、やっぱり朝倉市が物的なハード面におけるいろいろな問題は、市長は得意。先ほど述べられたようなものは、県会議員時代から市長になっても十分やってこられた。しかし、私から見た文化、広い意味の文化です。その中で特化した歴史とか教育というものを、今回、この数年、市長は体得さ

れて昨日の答弁になったと。特に私は文化という、広い意味の文化の中に歴史教育というものを踏まえた上で、そして、昨日、日本一のようなという言葉がちらっと出ておりましたが、対内だけではなくて朝倉市にはこういう文化があり、みんな一丸となってやっているというような、大きな、対外に打って出れるような一つの施策を、市長、ホップ・ステップ・ジャンプの、このジャンプの時期に打ち出すべきではないか。先ほどからの話というのは、内に籠もった部分が非常に多い。やはり人口問題、この次やりますが、ここが私のメインですが、そういったものを踏まえた中に総合的な政策が必要なんですけども、やはり、私が一昨年やりました、教育長とも話をしました、朝倉市が英語教育において、学校教育だけではなくて、幼児から高齢者まで、社会教育として、今、国際的にあちらに行ったりこちらに行ったりする人が多いんですが、そういった喜びを、朝倉市に行けば充実、体得できる、そういったものをつくり上げていく。これは隣の町長と村長、2人も公約に、今日は公約の話をするつもりはありません、全く。英語を一つの自分のところの村と町のスローガンとしてやっていきたいというふうに出しております。この朝倉市は非常に恵まれて、3つの高校を持ち、6つの中学を持ち、11の小学校を持っている。その中に、朝倉市が歴史・教育の充実、これは非常に重要、そして、その中の一つとして、社会教育を含めた文化の中の大きな英語教育というものを打ち出して、この前、一昨日、状況というのは、教育長に話をしておりますが、やはりこれは市長が音頭を取ってやっていくと、教育委員会としてもやりやすい、ですよ。教育委員会だけでやれるような問題ではない。やっぱり予算も伴いましょうし、いかに費用対効果をよくするかという知恵が必要です。しかし、何か一つ、これに、提案に乗られないなら乗られなくてもいいですが、やはりこの朝倉市は、これで、水で売ります、歴史で売りますって、もう、これも藩校サミットと同じように、もう全てテレビ放映、NHKの大河ドラマにして運動まで幾つもしてます。柳川もそれこそ米沢も、そのほかにも。だから、その中に朝倉市がどういう特徴を出すかということは、いろんな角度で出していかなきゃいけない。対内政策と対外政策という面においてアピールをしていくためにも、この施策は必要ではないかと思いますが、すぐにできないかもしれませんけども、私はこの今日の一般質問は、市長として現職におられて、そして来期も目指すということですので、来期はどうなるか分かりませんというような形の一般質問は意味がないと思います。しかし、やっぱり出る以上は、来期も市長としてやっていこうと思っておられて出馬表明されているわけですから、現職市長として、来期を目指す市長として、一つの朝倉市ここにありというような施策を一つでも二つでも、特に一つでも出していただきたいと思いますと思いますが、いかがですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 英語教育については、極めて大事なことであります。議員は英語がかなり、外国にも行かれておられますので、慣れてあるというふうに想像しますけれども、私も若い頃、かなりいろんなところで、英語会話ができるようなことをしたいという

思いが、二十歳前後になりますけれども、ありました。大濠公園で、いわゆるこれはアメリカ関係、領事館の関係があって、いろんな、そちらの家族もおられましたし、だけど、これができなかったんですね。だから、その後、やはり英語ができたらというようなのが、もうずっと思っておりまして、英語を今の子どもたちが身につけて、将来にわたって大いに活躍していただくということをはじめとして、これから先は、やっぱり外国人の皆さんとも共存するような時代に必ずなるというふうにも思いますので、非常に有効であるというふうに思います。

具体的に、英語で朝倉市を高めていくと、売っていくということにつきましては、基本的には、議員の御意見はよく分かります。しっかり考えて、また、お知恵も借りながらやっていきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） これは、朝倉市在住の中学生の父兄から、朝高にやりたいと思ったけどやめましたって、理由は、あそこは留学制度が充実してないと、はっきり言われて、そうですねということで、昔はフルブライト奨学金とかありましたけども、今はもうそれぞれの学校が、私立学校含めてそういったこの、前提としているというもの、充実したもの作って、今回、朝高、東高、光陽高校、それから浮羽工業、全部定員割れですよ。これ、後の人口問題にも関わってきますけども、こんなことが今起こっているなんていうことは非常にゆゆしきことで、魅力のあるものがないと今の子どもたちは来ませんよ、残りませんよ。だから、これから私も内容については、市長がこれに前向きであるならば、副市長以下担当の、教育委員会も含めて、どうしたらいいのかという、できるかできないかは別として、そしてそういったものを市民の中に夢を持たせる。子どもたちが、今、国際社会というのはもう当たり前のような、私も毎回、1週間に1回、必ずトラピックスとかその他いっぱい来まして、もう皆さん方ほとんど、外国語とか英語がいいかどうかとかじゃなくて、夢を持つようなものを子どもたちに抱かせ、そして地域社会がそれをサポートし、そして一体となってその市を盛り上げていくというものがないのかという、その中の一つとして提案しております。

教育長、今日、時間があまりありませんので、またの機会に、教育長、市長以下話があれば、乗っていただけるとしますので、教育委員会としても御協力いただきたい。

今日のメインは人口問題ですよ。今回の一般質問に当たりまして、私、何を聞かれますかって課長が来るから、いや、通告してますよって話で。私のやり方は原稿使いませんので、資料を持ってこいと、資料を持ってきてくれと、それを持ってくれば、私が言おうとしていることを分析して、そして一つの提案をしていきたいと。私の一般質問は、市長御存じのとおり、全体的な問題を捉えながら提言をしております。その中の幾つか、昨日も議員の皆さん方の御意見がありましたら、快く言って、取り上げていきたいということをお答えされましたので、私は歴代市長の中でも、そういった心はお持ちであろうと思いま

す。

ここに幾つか、5つぐらい資料があるんですけど、私も初めて知ったような資料が幾つか出てまいりました。

1つは、まず最初、4つ5つ問題があるんですが、基本台帳による地区別の人口の推移、これは令和7年、今の年度ですね、を推計して出されております。12月末現在、去年の。この中で人口が増えたところが2か所、2地区、それは立石地区と美奈宜の杜地区です。せっかくですので、時間があります、まだ多少あると思いますので、自分のところはどうなっているか、もう皆さん御存じだと思いますけど、他のところと比べて見てください、聞いてください。

上秋月地区、現在708人、23.8%の減です。秋月644、これも17%の減、安川地区1,439、20.3%の減、甘木9,216、5%の減、馬田地区3,917、7.9%の減、立石1万1,367、9.5%の増、福田地区2,299、13.0%の減、蜷城1,479、18.2%減、金川2,638、11%減、三奈木2,667、18.9%の減、高木176、54%の減、美奈宜の杜地区762、17.2%の増、朝倉地区、朝倉の朝倉です。1,407、17.4%の減、宮野地区2,066、15.9%の減、大福地区3,385、15.3%減、松末地区342、50.9%の減、杷木の杷木地区2,428、19.7%の減、久喜宮1,534、17.9%の減、志波1,024、25%の減、全体的には甘木地区が3万7,312人で5.8%の減ですが、朝倉地区6,858人、15.9%の減、杷木地区5,328、23.5%の減ということになっております。これは、人口減少という問題を捉えるときに、全体の数字だけが一人歩きしていて、地区地区の分析が今までなされてきていない、議会もそれはやっておりませんし、人口問題を語る上で何が必要かということを提示する第一歩です。

どれだけ地域が、地区が減少してきているかという、総人口として4万9,498人、これから述べる数字は、いつ記録を取ったかによって、出してきたかによって二、三人、10人差が出ますから、そこのところは気にしないでください。数字が違うじゃないかという話ではありません。全体的に5,239人、これ10年間で減って、大体毎年500人ぐらいになっています。だから、消滅可能性都市から脱却したというのは、このところにあるわけです。

今、皆さん方がお聞きになったように、どの地区がどれだけ減っているか、これは、この数字は前提ですよ。中身を分析しないといかん。後から少し出していきますけども、恐るべき数字が出てきます。

これの、時間があまりありませんので次に行きますが、現在のこの資料によりますと4万9,498人ということで、人口減の中で自然増はない、自然減である。しかし、社会増になったと。皆さん、本当に今の社会増になったという中身を知っていますか。何で社会増になったかということが大事なんじゃないですか。社会増になったということが一人歩きして、いつも皆さん方も議会報告でも、市長の挨拶でもそれが出てきますが、一体、本当に社会増という中身は何かというのが、これで出てまいりました、この資料で。これは朝倉市が作っております、出典は総務省ですが、住民基本台帳人口の中で、これ、現在

4万9,508人という、この数字では、だから4万9,500人ぐらいというふうに見ていただきたいと思います。先ほど言いましたように、何月時点で取ったかによって数名の差が出てまいりますので。このうち、4万9,500人だろうというふうにして、今、発表されております。この中に、令和7年連続速報値の中では、日本人として戸籍を有しているのは4万8,167人。じゃあ、どうして4万9,500人になるかといったら、外国人です。外国人の基本台帳人口の中に、平成24年から組み込まれてまいりました。だから、今、ここにいろいろな国から働き手として来ておりますが、その人たちが、これの数字に入ってきて、令和5年から社会増の現象は起こっております。しかし、日本人としては減少して、外国人の移住が増えてきたという資料です、これは。朝倉市が出しております。

この中に、結局、今回の令和7年度に1,341人、そして世帯の人が1,113人という数字が出てきて、これ2つのものが出てきます。1つは、労働者を、どんどん外国人移住者が増えてきているということです。この経過は、詳しくは時間がないので述べられませんが。それで最終的に社会増が令和6年が25名、令和7年の推測が48名ということです。この大半が外国人移住という資料であります。ということは何を物語っているか。もう一つ、この移住者の中に自然増が出てきて、この外国人移住者の中に、この令和7年には11名、1人死んでおりますので10名という数字が出てまいります。ほとんど夫婦で来ているか、1人で来ているかでしょうけれども、夫婦というような形で世帯として出しているのが200件近くあります。当然、子どもができてまいります。教育の問題が将来的には起こってくるという形になるわけです。

だから、この資料を見て私思ったのが、社会増の実態とは何かと、ずうっとこの間、話を聞いたときに、そしてその資料請求というのでもできませんでしたので、今回、いい機会でした。この数字を見る限りにおいては何が大事か、外国人移住が朝倉市にとっては年々増えてきて必要だということです。今、いろんな外国人移住問題で論議されておりますし、国会でもありますが、朝倉市にとっては、この数年間で1,100台を1,341という数字をつけてまいりました。全体的に見ますと、今、外国人の移住されてる、登録されている人が約400万人、10年後には1,000万人になると言われています。これは、日本全国の人口減少に伴い、もう朝倉市でも起こっております労働力不足を補うものであります。

こういった状況の中で、外国人対策というのが必要と、もう既に外国人が結構入ってきている市においては、市町村においては外国人対策課とか、これは、朝倉市がいろいろな、今、ネットでいろいろ問題があって風評被害もあるんですが、質のいい朝倉市に行って働きたいというような外国人を、私たちは企業もみんな望んでいると思います。そのためには、どういう形での外国人対策をしていくべきかというのが大きな課題。帰っていく、流出していく人もおります。朝倉市は全然よくないよ、あんなところ行ったらもうこうだよと、そうじゃなくて、もう期限が切れたけどまた行きたい。あなたね、家族で行ったらね、本当にいい人ばかりで、いい仕事できて、そこまでするかどうかは別として、通常の

生活ができるような体制ができたらいいなと思います。これはまず、これから10年後、20年後の朝倉市の大きな課題となると思います。

一方で、外国人排斥主義、しかし必要だ、この論議は、今、国会でもなされておりますし、地方においてもなされております。朝倉市において外国人対策、私の提言としては、ただ単に話を聞くだけではなくて、今、起こっている問題も含めながらも、外国人に対する、移住に対する、朝倉市の、課とは言いませんが、企画振興課あるいは政策課、いうようなところを含めて、あるいは、どこかいい部署があれば、そういうものを専属的にやるべき時期に来ている。また後でいろいろ述べていきますから、絶対それが必要だと思います。市長、いかがですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 質問は、外国人に対する係りなりが必要かどうかということであります。いろいろ、市のほうでも対策はしております。外国の人たちが多くなってきましたので、生活でいろいろ、やっぱり文化の違いが基本としてありますので、これに対応して、今月だったと思いますけれども、外国の人たちが困ったときに対応するような本を一つ作っているということは、ちょっと紹介させていただきたいというふうに思います。

それから……。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 質問は、そういった状況を踏まえて専門の課か係か人かを置いて、そういう問題に関してはそこに行けば、いろんな話ができる、問題点も議員も住民も話ができるような課、そういうものを市の中に設置すべきではないかということを提言しております。その結論だけを言ってください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 前向きに検討したいというふうに思います。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 外国人問題というのは、これから避けて通れない問題だということを認識しながら、私どもも、先ほどの地区の中にも外国人の人たちが住んでいる。もうあちこち行っても、外国人の労働者を見ないということはほとんどない、コンビニもそうだし、ホテルに行ってもそうだし、あるいは農業どこ行っても、私の知り合いのところに行っても、やっぱり働いている。そういった状況です。ますます増えてまいります。これは統計上そうなっております。

今は市長が前向きに検討するということですので、私はとにかく専属的にならないといかんということの裏づけをまた持ちたいと思います。これは皆さん方が興味があるかどうかは知りませんが、一応、私もこれ、教育委員会のほうから資料を得まして、これを見てからびっくりしましたので、令和7年現在です。皆さん方、今度、卒業式、行かれまして、その次に入学式、行かれますが、この全体的に見て、小学生の、中学生もそうなんですけ

ど、小学生が一番分かりやすいので、恐るべき数字がこの6年間で出てきています。三奈木は現在、今回、もう今ですよ、ここに資料は147名が80名になります、三奈木が、人数です、この人数。そして1年生が15名が9名になります、三奈木地区。金川は139名が76名、ほとんど半分ちよっと60%ぐらいになるということです、6年後ですよ。

その次、金川139名から76名に減ると、小学生が25名から、金川9名ですよ、急に。6年後に9名、1年生が。蜷城は53名から61名で1年生が10名から9名。これも横滑りですけども、非常に少ない。福田103名が62名、もう約6割。そして15名が7名という。立石802名が610名。要するに、立石、先ほど、1万一千何百ということを書いてましたけども、小学生は減ってくるということです。そして、今すごい数字が、151名と出てますが、6年後の1年生は94名。馬田が198名が135名、小学生は22名から25名ですから横滑りですが、全体の小学生は50名、60名ぐらい減ってまいります。秋月も84名が42名、小学生10名から6名、甘木465名が384名、これ65名から65名ですので、全体数はかなり減ってまいります。80名ぐらい減りますが、小学1年生は横滑り。杷木211名が121名、これも同じように60%ぐらいになってまいります。35名が17名ですよ、杷木小学校、これもびっくりですね。朝倉東153名が96名、1年生19名が10名です。大福も同じ、156名が91名ですが、23名が10名になります。横滑りが蜷城と馬田と甘木ですが、それ以外はもう激減する、小学生が。6年後ですよ、これはもう明確にこの数字は、0歳から今の未就学の6歳までは、今まで育ち、そしてここに、小学校に入るという数字を前提としていますが、そうそう大きくは変わらないでしょう、大きな流入がない限りは。これに対して教育委員会も対処していかないけない。だから、先ほど私が言った、専門的な部署をつくりなさいというのは、つくったほうがいいというふうに提言しているのは、関連しているということです、この人口問題は。

次に、時間がありませんが、一昨日、5番議員からも農業問題が出されました。私は数字だけ、人口問題だけ言いますが、農業農家、2010年から3,570戸が2020年には2,222戸、10年間で1,348戸減っております。それから、農業従事者が3,608人が2,425人、これは1,183人減って、10年間で減っているわけですが、今年度、2025年の国勢調査に基づいて、今年、人口の数字が出てまいります。恐らくかなり減るだろうと。10年後には半分になると、全国的にも。朝倉市も、5番議員からの意見も出ておりましたが、かなりの厳しい状況になるというようなことで、数字だけ、人口問題だけを捉えても、やはりまた同じように、その専門部署によって、いろいろ見ていかなきゃいけないと。

最後に、あまり時間ありませんが、これは私も新しく見ました。これは令和6年に出された人口戦略会議、これは国が諮問しておる、御存じだと思いますが、これが福岡県を通じて朝倉市のほうに入ってきております。若年女性人口減少率の増減、この話は、十数年前に増田さんという方が出したときに論議されましたが、この間、全く論議されていない。私も責任があると思いますが、平成26年にここの同僚議員と一緒に人口問題研究会と

いうのをつくってやったんですが、お蔵入りみたいな形になってしまいました。本当に真剣白刃で行政も議会もこういう問題を捉えていかなければ、先が本当にあるのか、今さっき言った数字はどんどん減っていく数字ですからね。これを好転させないといけない、横滑りができればいいぐらいで、ますます減っていく、これはもう絶対的に、だからそれはやむを得ないことだということではなくて、どういう対応をしていくか。もう教育委員会なんかも大変だろうと思う、こういう数字が出てきて、将来的には。この人口、若年女性人口というのは20歳から39歳、一定陰りまして、この会議が想定しておるわけですが、出産可能な女性ということです。これが2020年の統計しかありませんので、その後が出ていません、まだ。今年以降、恐らく出てくるだろうと思いますが、これ、総人口5万人、朝倉市の話です。その中に若年女性人口は4,432人、全体の比率が8.8%、物すごい。この会議が一番大事にした中心は、この若年女性の流入流出と同時に、その地域で出産をどれだけしていつてくれるのか、どれだけ残ってくれるのかという、この数値を出しております。

朝倉市は流出が激しいです、この資料によりますと、これから先ますます。この女性の対策も含めてやらなければ、これは子育ての問題もありましょうし、結婚・子育て、出産・子育て、そして教育、福祉、教育、そして将来的にはというふうになるわけですが、これも対策は、今さっき述べております、人口問題を考えるとすれば、一定、数字はこうですよ、社会増になりましたという話ではなくて、これだけの問題を抱えておるということを私は前提としなければ、減ることが前提だ、それはしょうがないでしょう、全国的な、朝倉市も同じ。しかし、それに対する、どういう対応をしていくかということは、これからの行政、市長を中心とした行政とこれからの議会が抱えていかなければいけない問題だと思います。地域の話をつくる話をよくされますが、この人口減少に対してどうするかという話をしないと、住民代表としては一歩欠けるのではないかと私は思っております。

この若年女性人口というものも含めて、今、人口問題に関わる、私が今、資料として頂いております、これを持っております、5つの課題を、今後、執行部としては精査しながら、それぞれの部署に関わってまいりますので、退職される方もおりますし、市長も、当選された暁には、どなたがされるか分かりませんが、そのときには私もまたやっていきたいと思いますが、人口問題なくして、しかもただ単なる人口減少するか増加するかじゃなくて、それに関わる、そして、あっ、一つ褒めてやらないかとがありましたんで、今度の、課が来た中で、商工観光課ですかね、労働の関係で話をしましたら、去年、高校1年生・2年生のためのキャリアガイダンス説明会というのをつくっていったと、これを見ますと各企業の紹介がたくさん載っています。これ数回、年に課と企業も一緒に行っていると、これはもう国会でもやってある、国が中心的にやって企業を連れていって交流・貿易というような形、これを人口も含めてやっぱりやっていくべきではないか。市長、やっぱり、トップセールスマンとは言いませんが、トップの一人として、やっぱりそういったものに年に1回でも高校を回るというようなことを、されているんだったら、もう大い

に結構ですが、もう簡単に、時間がありませんから、お願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） キャリアガイダンス事業は、非常に意義のある事業でありまして、その成果も、いわゆる高校1・2年生、それから企業側も非常によかったということでもございますので、これはぜひ継続して若年者の朝倉定着をやっていききたい。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 具体的な施策が見えましたので、少しばかり、やかましいというか、厳しく言うばかりじゃなくて、いいところは褒めてやらないかんと思ひまして、課長以下、頑張つとると、部長以下ですか、失礼しました。市長も頑張つとると、副市長も頑張つとると、それを、私が先ほど提案したものを含めてやっていかないかんということです。やっぱりそういった実績、頑張れば実績も出てきます。やはりそうした、毀誉褒貶とも言いますが、いいところは、悪いばかりじゃなくて褒めてやらないかんというように思います。

時間がないので、最後に通告しておりました財政問題、これは、今回、当初予算で予算審査が行われますので、そういった問題の捉え方ではなくて、これ、財政がどうなっているのかと、細かいものは、私もいつもやっておりました。これを昨年の3月、もう本当1年前ですよ、1年前に出されてきました財政の見通しを含めて、私、そのときに全協で、こんな財政の見通しはあり得ないよという発言をいたしました。なぜならば、令和8年から12億円の赤字が出て、5年後の令和12年には47億円の赤字が出ますというような財政の見通しを、議員の全協の中で出されてですよ、はあ、大変ですね、これはどうしようかと、そんな話じゃないですよ。どうやって、今のまま行ったらこうなるかもしれないかと、どうやったら、これが改善して、財源がなかったら、財政赤字だったら何もできないということですからね。いかにこれ大事かという話です。

それで、私はその去年の段階で、総論的な話で、そんな心配しなくていいよというような形を取りました。なぜならば、今回、まさに令和8年の当初予算が出てきたわけですが、審査するわけですが、この見通しにおける12億円の赤字以降をこの令和8年と比較した場合に、何らかの方針を取ってきているわけですよ。取るのが当たり前の話です。皆さんもそうだと思いますが、5年先、今年度は赤字が出ます。5年先には47億円の赤字が出ますということで認めるような、内部取締役は別として、社外取締役は絶対にあり得ない。じゃあ、好転するようにやればいい。できないならということの話になるわけですよ。

私は、この令和8年の予算編成の中を見ますと、この資料を皆さん方持ってないので、今日お持ちではないので分からないと思いますが、財政課は持っているし、市長もヒアリングを受けていると思いますので、もしも、市長、これは細かい数字だけで、私は最後に、ひとつ財政の見通しというものをつくれというのが結論です。この中身について、いろいろ私も、この赤で書いているように、数字をずうっと出しております。今日の朝まで

確認しました。数字を確認するというのは大変ですよ。ただし、この令和8年で出されてきたものは、令和6年の決算と令和7年の当初予算を目標に出されているわけですね。この1年の違いで12億円の穴が、今回は骨格予算だと、骨格予算と本格予算どこが違うかというと、最終的には投資的経費ですよ。何をするかという事業のところに出てきます。それ以外はほとんど大きな差は出てまいりません。

これは、確かに投資的経費は抑制されているわけですが、10億円程度抑制されています、予算よりも見通しよりも。しかし、これはどこかの財源、これは多くを語ることはできませんが、本当は議会も含めてこの問題を捉えて、やはり全体で論議しないといかん。財政的な問題を捉えずして、議員が住民代表として要望、要望、あるいはこうしてほしい、こうすべきであるという話は、これを踏まえないと、「入るを量りて出づるを制す」という言葉がありますが、十分に、そしてこういうふうになれば、私が言っている、こういう施策が実現できるじゃないですか。やはり財源の裏づけを示した議会、議員でありたいということが、私は1期生のときから願って財政問題を勉強してまいりました。そういった面で、市税も今度、令和8年、3億円程度、2億2,500万円程度上がっております。細かい数字は別として、令和8年の見通しは歳出で360億円、歳入で348という数字ですから、当然12億円の赤が出てまいります。しかし、今回出されてきた369億9,000万円というのは、その歳入に関しては21億円プラスになっております、今度の当初予算は。歳出のほうは9.5プラスになっております。だから、差引きすると12億1,000万円ぐらいが減ってくるわけで、赤字として前のときには出てくるわけですけど、今回、骨格予算を前提としながらも、本格予算に入ってきた投資的経費を見たときの財源は、市長が何をするかによって違ってきますが、この基金残高がこの見通しよりも令和8年は使える財調、減災、公共施設、地域振興、まちづくりを足した総金額は7億7,000万円プラスになっております。だから、そういったものの運用、当然、取崩しが行われてくるでしょう。だから、そういったことを前提としながらやっていく。結論からすると、こういったものを、もう私、時代だけでも、この財政の見通しが12年、13年、5年でもいい、これ一つ、時間は余りませんけども、平成27年に堀内部長か課長か、そして現副市長の佐々木課長か係長かのときに出されてきました。見事なものです。3案をつくってあります、試案が。通常どおりいったらこうなりますよ。この新庁舎、60億円という予算でしたが、これをつくったらこういう編成になりますよ、予算編成が出てきますよ、そしてプラスアルファは起債、何をもってするか。それにまたよって、こういう試算が出てきますよって3通り。そして、この中には大型事業、あればすぐやっていかないかんの事業を十分載せられております。そういった、きめ細かな資料を私どもは検討してきたわけです。

市長、もう結論は財政の数字をどうのこうのじゃなくて、財政の見通しを、今後、市長として継続していった場合にやる気があるかどうか、これは財政の専門家である副市長もおりますから、ぜひ来年度中には5年ないし10年のきめ細かなものを出すべきだと、そし

て将来設計の施策を述べるべきだと思いますが、いかがですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 責任ある積極財政ということで捉えさせていただきました。

私も責任ある積極財政といったことはやりたいと、その考えで動いていきたいというのはありますけれども、現在、今、お話になったことのほかに、例えば、平成29年の災害の農地改良事業等の予算計上はまだあります。そのほかに借り入れた地方債、これの召還という、いわゆる積極財政にとってはマイナスの部分もあるということがございます。

それから、3つのパターン……。

○議長（小島清人君） 16番。

○16番（実藤輝夫君） 時間がありませんので。そういったものを踏まえた上で財政の見通しの、新しい財政5年、10年計画を市長としてつくる気があるかどうかを、だけを答えてください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 将来見通しを出すと、つくるという、して議論するということについては賛同します。時期については、今申し上げたこと等がございますので、よく検討して、財政の見通しはつくるということです。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） なかなか時間がありませんし、多くを語りたい、あるいは資料も出したいと思いましたが、残念ながら時間も参りました。

今後、この私の提案に対して、市長は積極的に頑張っていただきたい。これで終わります。

○議長（小島清人君） 16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終わりました。

これにて一般質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。午前11時10分に再開いたします。

午前11時1分休憩